

新潟県

公民館月報 2

平成14年2月号 通巻第588号



表紙 柏崎市・市民プラザ
(柏崎市柏崎公民館)

特集 平成14年度からの学校週5日制の
完全実施に向けたトータルプラン

視点 ユースホステル雑感

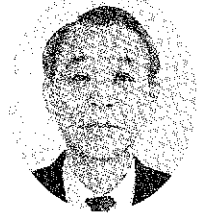
ひろば いまどきの…

サークル交流 十日町シネマトーク (十日町市公民館)

西山かたくり一座 (西山町公民館)

素顔拝見 五十嵐誠一さん (豊栄市)

遠藤 佐さん (上川村)



先行き不透明なとき

県公連副会長 馬場 正和

県公連第4回

理事会開催

- 平・14・1・28(月)
- 於新潟市中央公民館
- 参加者
- 協議題

第43回関プロ大会

- ・大会趣旨
- ・分科会名称・内容
- ・ホテル宿泊料金
- ・事務局体制・準備組織
- ・その他

下公連第3回

評議員会開催

- 平・14・2・5(火)
- 於新潟市中央公民館
- 協議題
- ①平成14年度下公連役職員研修計画(案)
- ②平成13年度会計中間報告
- ③平成13年度各地区別研修実施状況
- ④その他第43回関プロ研究大会準備状況

「輝く」「はばたく」「希望」などの期待をこめられ21世紀はスタートしましたが、テロ事件の勃発、それに対する報復、国内では、景気の低迷、リストラ、構造改革など、日本はいま新しい姿に向かっている大転換の座みの苦しみを味わっているようです。しかしながら、どのような方向に歩み出しているのか、その姿ははっきりせず、不安感、先行き不透明感が日本全体を覆っているように思えます。

このような不安感、先行き不透明の強い、環境がコロコロと変わるときには、いっぺんに元に戻って、本当にこれでいいのかという原理原則に返る、「先祖返り」、「昔返り」がはじまるといわれております。

「いま」に生きていて、昔より幸せだと言いつける人が、はたしてどのくらいいるのでしょうか。その地域の昔ながらの生き方、地域の歴史、伝承、自然など積極的に昔のいいところを掘り起こし、古いものがふたたび新たな価値を持つといった事業が、公民館にますます求められていくのではないかと思っております。

昨年の社会教育法の改正での、家庭教育・地域の教育力の再生等もこの「先祖返り」、「昔返り」の流れのなかで考えられないでしょうか。

不特定多数で構成し、定点観測・評価機能を持たない「地域」で教育力を持つということとは、どういうことなのでしょう。

昔の家庭には強い連帯感があり、地域には強い連帯感がありました。いっばい自由に遊べる場所があり、隣の子、近所の子、だれでも自分の子と同じように叱れ、ほめることができた、地域内コミュニケーションがある環境がありました。地域、子ども

も両方とも、教育している、育てている意識のない環境で、子どもは育ちました。

また、いまの青少年は文字や映像、インターネットだけで情報やメッセージを受け取り、何かを理解し、確認しようとする傾向が見られます。

視覚だけによる判断は、いちばん人の心を誤らせやすいものです。ここにこう写っていた、書いてあった。何もわからないのに、わかった気にさせてしまいます。自分の手で直接触れ、肌で感じたり、叩いたりして知る質感、量感、温かさ、冷たさ、耳で聴いたり、鼻で嗅いだりして初めて目の前にある情報が本物か偽物かを見分けることができます。

これからの公民館の青少年育成事業、だれでも自分の子と同じように叱れる、ほめることができる環境づくりと、人や地域・自然との関わりを直接体験・自然体験のなかで深めていく工夫がますます求められていくものと考えております。

いづれにしても、公民館創立50周年の節目にあたり、原点に立ち返ってのますます充実した事業展開が求められます。皆様のご活躍を期待いたします。

『公民館運営審議会委員の手引-改訂版-』完成!!

実践事例集 地域づくりと公民館

社会教育学級等における

学習計画立案の手順と方法

元横浜国立大学教授 吉川 弘著

- A4版 500円 68ページ
- A4版 500円(送料実費) 88ページ
- B5版 440円(送料実費) 44ページ

公民館月報(個人購読大歓迎) 定価1部150円 年共・年極 1,800円
 申込先 ☎951-8053 新潟市川端町2-9 県林業会館内 県公民館連合会事務局 ☎・FAX025-224-6073



視 点

「おはようございま
す。」
ユースホ
ステルの朝
は、若者達
の爽やかな
挨拶で始ま
る。ここには今、マナー
が問われているような
若者の姿はない。明る
く、礼儀正しい健康的
な人達である。

「登山の魅力は……」
若い人達との会話
は、旅の疲れをいやし、
気分が若やいでくる。
男性はツーリング族
の三十代、女性は二十
代が大半を占める。み

ユースホステル雑感

相田 孝助

れに面倒見のいいマ
ネージャーへの感謝と
信頼で結ばれているか
らではないだろうか。
もうひとつは、男女
別の合部屋であるため
互いには迷惑をかけな

「どちらからですか。」
「どうして、ユースホ
ステルを選ばれたので
すか。」
昨年、日本百名山巡
りの基地として二ヶ所
のユースホステルを利
用した。

んな清楚で好感の持て
る人ばかりである。
一体、このマナーの
よさはどこからくるの
だろうか。
ひとつには、格安な
料金で泊めてもらって
いるという謙虚さ。そ

低料金で美味しい食
事。それに交流を深め
合えるユースホステ
ル。さて、今年は何ん
な出会いが待っている
だろうか。
(前村松町公民館長)

いようルールを守るこ
とで、楽しく泊まれる
ことを知っているから
であろう。
こういう体験を通し
て共同生活におけるよ
き態度、習慣を身につ
けてきたのではないだ
ろうか。いわば、ここ
は、寄り添って生きる
術を学ぶ教育施設とい
えよう。

平成14年度 『各種公民館大会等の予告』

◎第43回関東甲信越静公民館研究大 会兼第53回新潟県公民館大会

・平成14年8月29日(木)～30日(金)
・於 豊浦町月岡温泉
ホテル泉慶・華風

・参加 関東ブロック関係者
1,200人を予定

◎第25回全国公民館研究集会

・平成14年10月3日(木)～4日(金)
・於 愛媛県松山市
県民文化会館

・十日町市中条地区公民館が発表予定

◎関東甲信越静公民館連絡協議会理 事会

・平成14年5月下旬
・於 新潟市内で開催予定

◎第42回社会教育研究全国集会

・平成14年8月30日(金)～9月1日(日)
・於 沖縄県名護市

◆栄えある受賞者

平成13年度全国視聴覚教育連盟
視聴覚教育功労者表彰
元、牧村公民館社会教育主事

成島継紀様



いまだきのの……
西川町公民館運営審議会会長 加藤 利信

「果たして? 私は、
西川町で中学校の体育館の
開放を受け、約25年間子ど
も達の体操をみてきまし
た。

いまだ
きの子ど
もはなど
と言う言
葉をよく
耳にしま

ひ る ば

「できた、できた。」と大声
で喜ぶ子、今も昔も子ども
は子どもです。大人からみ
て足りないところや、心配
なところがいっぱいあるの
が子どもです。そんな子ど
もが、社会でも生きていけ
るように根気よく育て、見
守っていくのが大人である
親の役目かと思えます。
今どきの子どもと、しい
て言えば、練習を休む子ど
もが多くなったことです。
これは子どもだけではなく

いまだきの子どもは我慢
ができない、あきつぽい、
何を考えているかわからな
い等々、確かにその通りだ
と思えます。では、昔の子
どもがそんなに頑張り屋
で、しつかりしていたで
しょうか。
先日、以前練習をみてい
た高校生が遊びに来まし
た。彼は、小さい頃には時々
習に行きたくない、と親を困
らせていましたし、体操向きとも
思えなかったのだが、今では國
体で活躍する選手となっていま
す。又、いつも泣いてばかりで
いつまで続くのかなと思われた
女の子が、いつのまにか元気に
選手生活を送っています。逆に、
もう少し我慢をしてくれたらそ

親の問題とも思われます。失敗
を繰り返して、悔みながら工夫し
ていくことが子育てかと思うの
ですが、今どきの親は、子ども
に甘いというのか、子どもに遠
慮し、気を遣っているのでは、
というふうにも見えます。少々心
配です。これが「今どきの大人」
なのだろうか、と考えるのは私
だけでしょうか。

施に向けたトータルプラン 新潟県教育委員会

提供したり、指導者として積極的に子どもたちと係わることなどにより、地域社会全体で子どもを育てる気運を高め、地域の教育力を向上させていく。

(3) 社会教育団体等

各組織を通じて学校週 5 日制の趣旨を生かした取組を強化し、青少年の健全育成を図るとともに、指導者等の人材を育成する。とりわけ、PTA は、学校週 5 日制の趣旨が保護者に正しく伝わるよう情報提供に努めるとともに、地域や行政機関との連携を強化する。

(4) 市町村教育委員会

ア 市町村の広報等を通じ、完全学校週 5 日制の実施とその趣旨を住民に周知する。

イ 完全学校週 5 日制の対応について、学校、PTA、行政機関との協議の場を設けるなど、地域の体制を整備する。

ウ 学びの場、体験の場、遊びの場づくりなど、土曜、日曜日における子どもたちへの多様な活動機会の場を提供する。

エ 子どもたちを対象とした土曜、日曜日の諸活動の機会や場について、市町村の広報や学校等を通じた的確な情報を提供する。

オ 社会教育主事、社会教育指導員、体育指導委員の活用やボランティアを含めた指導者の確保・養成に努める。

カ 家庭教育に関する講座等の一層の充実を図ることや、子育てに不安を持つ親への子育て講座や相談体制など充実させ、家庭の教育力の向上に努める。

(5) 県教育委員会

ア 家庭や地域社会が一体となって子どもたちに基本的な生活習慣や生活能力を身につけさせ、思いやりの心や規範意識などを育てる家庭や地域社会の役割の重要性について啓発するとともに、地域の子どもは地域で育てる気運を高め、子どもたちが家庭や地域社会において充実した生活ができるよう、広く県民に対して学校週 5 日制の趣旨を周知する。

イ 各教科や総合的な学習の時間等の学習を充実させ、主体的な学習態度や生活態度を形成し、子どもたちが土曜、日曜日を有効に活用して、家庭や地域社会において主体的に過ごせるよう指導するとともに、非行等の防止のための生徒指導を強化する。

ウ 子どもたちが土曜、日曜日の活動を主体的に選択できるよう、生活体験、自然体験、社会体験、文化・スポーツ活動などの場や情報提供を充実させるため、市町村教育委員会や民間団体を支援する。



Q&A②

Q2 子どもの非行が増えないか心配です。
A2 休日を無為に過ごすことにより、非行に走る子どもの増加が心配されますが、「地域の子どもは地域で育てる」体制づくりとその気運を高めることによって、子どもたちの健全育成を図るよう、社会全体で取り組んでいく必要があります。

最近の子どもたちには、親子のふれあいや様々な人々との交流が不足し、いろいろな問題が生じているとごわわれています。完全学校週 5 日制が実施されて、その問題解消に向けた取組がなされ「生きる力」がはぐくまれることの効果の一つとして、子どもたちの非行防止・健全育成が図られることが期待されます。

ただ、これは完全学校週 5 日制になれば自然と醸成されるというものではなく、学校、家庭、地域社会それぞれが、本来果たすべき責任を担い、かつ、協力していかなければその効果はあがりません。その意味では、これまでに以上大人の役割は大きなものとなります。

現在、県や市町村では、市町村青少年育成センターや青少年育成新潟県民会議、青少年育成市町村民会議、子ども会、PTA が協力し合って、子どもたちの健全育成に取り組んでおり、非行防止に努めています。

6 県教育委員会としての具体的な対応

〈対応課〉

(1) 子どもたちに対して

ア 子どもたちが学習・体験活動を通して健やかな成長ができるように、地域の施設や指導者を活用した子どもたちの様々な学習・体験活動の機会と場やそれに関する情報提供をするための取組を行う。 〈生涯、保体、文行〉

イ 美術館において芸術文化体験活動を実施することにより芸術的感動を実感させたり、文化財にふれる体験や伝承活動の発表・交流をとおして文化財への理解を深めるための取組を行う。 〈文行〉

ウ 県教育委員会、他部局等が実施する土曜、日曜日における子どもたちの自然体験、社会体験、文化・スポーツ活動などの諸活動について、ホームページにより各学校、市町村教育委員会へ情報提供を行う。 〈義務、高校〉

(2) 学校に対して (省略)

〈義務、高校〉

(3) 市町村教育委員会に対して

ア 市町村立学校への指導要請 (省略) 〈義務〉

イ 学習・体験活動の機会と場の促進 〈生涯〉

子どもたちが、土曜、日曜日を有意義に過ごせるよう、地域における子どもたちの様々な学習・体験活動の場や情報提供の体制を整えるよう要請するとともに、その体制づくりが促進されるよう市町村教育委員会の取組を支援する。

また、土曜、日曜日の子どもの居場所づくりの参考となるよう、学習・体験活動のモデル例を別途策定し、市町村教育委員会や民間団体等の取組を支援する。

ウ 小・中学校施設の開放に関する規則の整備

〈生涯〉

学校週 5 日制の趣旨を生かし、地域ぐるみで子どもたちを育てるため、放課後や土曜、日曜日に学校施設を地域住民の利用に供するための必要な規則等を、先進例を参考にしながら、整備するよう要請する。

エ 学校、PTA 等との連携強化

〈生涯〉

市町村教育委員会に対し実施した「完全学校週 5 日制への対応について」の現況調査において、完全学校週 5 日制への課題として、「学校、PTA、行政機関との協議の場を設けることが重要である」との指摘が多かったことから、市町村教育委員会がその協議の場を設け、共通理解による連携強化を図るよう要請する。

また、青少年教育諸団体が連携して完全学校週 5 日制への取組ができるよう、新潟県子ども会連絡協議会や青少年育成市町村民会議等との協議の場を設けるよう要請する。

オ 地域における指導者の確保等

〈生涯〉

社会教育主事、社会教育指導員、体育指導委員

Q&A①

Q1 仕事などで、土曜日に保護者が家庭にいない場合はどうしたらよいのですか？

A1 県では市町村と協力しながら、子どもたちが安心して過ごせる居場所づくりや体験活動の機会と場の拡大及びこれらの情報提供を進めています。

子どもたちには、土曜・日曜を利用して、家庭や地域社会で生活体験や自然体験、社会体験、文化・スポーツ活動など様々な活動をとおして有意義に過ごしてほしいと考えています。

このため、県では市町村と協力しながら、公民館や図書館、体育館などに、子どもたちが安心して過ごせる「居場所づくり」を進めています。また、地域における体験活動の機会と場を広げ、これらの情報提供を進めています。

〇 〇 〇

1 学校週5日制の趣旨

学校週5日制は、学校、家庭、地域社会がそれぞれの役割を明確にし、子どもたちに豊かな体験をさせることをとおして、子どもたちが自ら考え主体的に判断・行動できる力や他を思いやる心、健やかな身体など「生きる力」をはぐくむことを目的に実施される。

子どもたちが、家庭や地域社会で過ごす時間が増大することに伴い、家庭や地域社会が一体となって、子どもたちに基本的な生活習慣や生活能力を身につかせ、思いやりの心や規範意識などを育てるという意識や気構えをもつことがますます重要になっていることから、子どもたちの地域での活動を充実することなどをとおして、地域の子どもの地域で育てる体制づくりとその気運を高めることは、社会全体の課題と責任であり、子どもたちの健全な育成とともに、大人の学びも進めるべきものと考えている。

2 県教育委員会の基本的な考え方

- (1) 学校、家庭、地域社会が、バランスのとれた教育を行うことによって、子どもたちに「生きる力」をはぐくみ、健やかな成長を促すため、学校、家庭、地域社会は連携を図りながら、それぞれの役割を明確にし、教育力を発揮して、子どもに豊かな体験をさせる。
- (2) 学校においては、児童・生徒がじっくり学ぶことをとおして、基礎・基本の確実な定着を図るとともに、自ら学び自ら考える力を育てる。
- (3) 家庭や地域社会においては、学校週5日制の「ゆとり」の中で、生活体験、自然体験、社会体験、文化・スポーツ活動などの様々な体験活動や異年齢交流等とおして、多様な人間関係を形成し、たくましい正義感ある子どもたちを育成する。

3 県教育委員会の実施上の基本的な方向

学校週5日制は、学校、家庭、地域社会での教育や生活全体で、子どもたちに「生きる力」をはぐくみ、健やかな成長を促すものであることから、学校週5日制の趣旨を家庭や地域社会に周知するとともに、関係機関や市町村教育委員会、社会教育諸団体とも連携し、土曜、日曜日を有効に活用した豊かな学習・体験活動など、子どもの「居場所づくり」をとおして家庭や地域社会の教育力向上への取組を進めていく。

- (1) 学校、家庭、地域社会の連携の強化
 - 「生きる力」を次の2点からとらえ、学校、家庭、地域社会の連携を深める。
 - ア 自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する能力
 - イ 自らを律しつつ、他人と協調し、他人を思いやる心や感動する心など豊かな人間性とたくましく生きるための健康と体力

特集

平成14年度からの 学校週5日制の完全実

(2) 家庭の役割の重要性の啓発

子どもたちが家庭や地域社会で過ごす時間が増大することに伴い、土曜、日曜日を有効に活用した親子のふれあいなど、家庭での教育の重要性を啓発する。

(3) 学校週5日制の趣旨の周知

学校週5日制の完全実施とその趣旨を家庭や地域社会に周知し、地域で子どもを育てる気運を高めるとともに、学校週5日制の実施に伴う親等の不安や疑問にこたえ、子育てに関する情報を提供する。

(4) 推進体制づくり

市町村レベルで、学校、PTA、行政機関との協議の場を設け、子どもたちの地域社会での学びや活動を支援する体制を整備するなど、完全学校週5日制に対応する推進体制づくりを促進する。

(5) 学習・体験活動の機会と場の提供

土曜、日曜日を利用して、家庭や地域社会で子どもたちが生活体験、自然体験、社会体験、文化・スポーツ活動など様々な学習・体験活動をすることができるよう、地域で子どもを育てる環境づくりを促進する。

(6) 学習・体験活動等の情報提供

子どもたちが家庭や地域社会で土曜、日曜日を有意義に過ごせるよう、学習・体験活動や指導者に関する情報提供を促進する。

(7) 指導者の確保と養成

社会教育主事、社会教育指導員、体育指導委員の活用や地域のボランティアを含めた指導者の確保・養成を促進する。

4 完全学校週5日制実施上の課題(省略)

- (1) 完全学校週5日制への理解不足(省略)
- (2) 指導者等の不足(省略)
- (3) 学習・体験活動の機会と場及び情報提供の不足(省略)

5 完全学校週5日制実施における役割(省略)

- (1) 学校(省略)
- (2) 家庭・地域社会

ア 家庭

完全学校週5日制の実施により、子どもたちが家庭で過ごす時間が増えることから、家庭では、子どもが社会で生きていくために必要な基本的な生活習慣や生活能力、他人に対する思いやり等を、親子のふれあいをとおしてきちんと身につけさせる。

イ 地域社会

都市化、核家族化、少子化や地域のつながりの希薄化などに伴い、地域で子どもを育てる気運が薄れているが、完全学校週5日制の実施を機会に、家庭と地域社会が一体となって知恵を出し合い、子どもたちに様々な学習・体験活動の機会や場を

4 面より

の活用やボランティアを含めた地域の指導者の確保・養成を要請する。

カ 家庭教育に関する学習機会の充実 〈生涯〉

(ア) 家庭の役割の重要性を認識し、家庭の教育力を向上させるために、公民館等で行われている家庭教育に関する講座等を更に充実させるとともに、就学時や乳幼児の健診時や学校行事など多くの親が集まる機会に講座を開設するなど、参加者や地域の実情に応じた多様な学習機会を提供するよう要請する。

(イ) 父親の家庭教育における役割の重要性を啓発するために、企業や公民館・幼稚園・保育所等と連携・協力して父親のための学習機会を多く開設するよう要請する。

(ウ) PTAや子育てサークル等が行う家庭教育に関する学習機会や、公民館等の社会教育施設や学校施設の利用について便宜を図るよう要請する。

キ 地域住民への周知 〈生涯〉

地域住民に対しては、市町村の広報や地区の回覧板等により、学校週5日制の趣旨を周知するよう要請する。

(4) 保護者・地域住民に対して 〈生涯〉

子どもたちが基本的な生活習慣や生活能力、他人に対する思いやり、善悪の判断などを身につける上で、家庭や地域社会の役割は極めて重要である。完全学校週5日制の実施を機会に、地域で子どもを育てる気運を高め、家庭や地域社会の教育力を向上させるための取組を行う。

ア 家庭や地域社会の教育力向上への県の取組

(ア) 親が自信を持って子育てに取り組んでいくきっかけとなるよう、「家庭教育手帳!」や「家庭教育ノート」を子を持つ親に配布し、家庭教育における親の重要性や基本的なしつけなど情報提供し、子育てを応援する。

(イ) 父親の家庭教育参加出前講座や思春期の子どもを持つ親への子育て講座等の開設を充実する。

(ウ) 地域の青少年活動の指導者・リーダーの養成などをおして、家庭や地域の教育力の向上に努めるとともに、地域で青少年を育てる気運を醸成する。

(エ) 県立の青少年教育施設における親子の共同体験活動など、親子のふれあいの機会を充実するとともに、市町村教育委員会が行う親子共同体験事業を支援する。

イ 家庭や地域社会の教育力向上への市町村教育委員会の取組への支援

(ア) 参加者や地域の実情に合った学習機会の提供ができるよう、公民館等で開催される家庭教育に関する講座等の充実を促進する。

(イ) 家庭での教育に自信がない、子どもへの接し方が分からないといった親が増えていることから、乳幼児やこれから小学校へ入学する子どもを持つ親に対しての子育て講座の開設を促進する。

(ウ) 市町村子育て支援ネットワークを充実し、子育てサポーターの確保・養成や子育てサークルづくりを進め、地域における子育て相談体制を促進する。

(エ) 地域の子どもたちの学習・体験活動に、地域住民が指導者やボランティアとして積極的に参加できるシステムづくりを促進する。

ウ 学校週5日制の趣旨と家庭や地域社会の役割についての啓発

(ア) 県教育委員会の広報誌「かけはし」を通じ、県内全児童生徒の保護者に対し、学校週5日制の趣旨と家庭や地域の教育力の重要性を啓発する。

(イ) 県内全児童生徒の保護者向けパンフレットを作成し、趣旨の徹底と保護者の持つ不安や疑問にこたえるとともに、子どもたちが週末を有効に過ごすための学習・体験活動に関する情報を提供する。

(ウ) 県の様々な広報手段を通じて、広く県民に学校週5日制の趣旨を周知する。

(エ) 市町村広報紙等を通じて、学校週5日制の趣旨と家庭や地域の教育力の重要性を啓発するよう市町村教育委員会に要請する。

(5) 関係団体等に対して

ア PTA (省略) 〈生涯〉

イ 社会教育団体等 〈生涯〉

新潟県子ども会連絡協議会等社会教育団体に対し、学校週5日制の趣旨の徹底と県の対応方針の周知を図るとともに、国の「子どもゆめ基金」の活用等により児童生徒が参加できる土曜、日曜日の諸活動の強化を要請する。

ウ 学校体育・地域スポーツ関係団体 〈休体〉

(ア) 学校体育団体に対して (省略)

(イ) 地域スポーツ関係団体に対して

下記事項について、県体育協会、市町村教育委員会等を通じて、市町村体育協会、市町村競技団体、スポーツ少年団等に対し、学校週5日制の趣旨の徹底と県の対応方針の周知が図られるよう要請する。

① 学校週5日制の趣旨を踏まえて、児童生徒のスポーツニーズを充足できるスポーツクラブの育成に努める。

a 小・中・高校生を対象とした複教種目型ジュニアスポーツクラブの設立・育成

b ジュニアから高齢者まで地域の誰もがいつでも活動できる総合型地域スポーツクラブの設立・育成

② スポーツへの参加意欲の高揚を図るため、児童生徒の関心の高いスポーツ教室や大会を開催する。

③ 指導者の確保・養成に努めるとともに、スポーツクラブ、各種大会、教室などでの活用を努める。

a 児童生徒の指導に必要な資質の向上を目指した指導者研修会や講習会の開催

b スポーツリーダーバンク等の活用

④ 児童生徒のスポーツニーズを踏まえたスポーツ施設の有効活用を図る。

a 学校施設を含めたスポーツ施設の有効活用

b 隣接市町村のスポーツ施設の共同利用

⑤ 地域と学校の関係者等による連携推進組織を設置し、児童生徒のニーズに応じたスポーツ活動の企画・運営・連絡調整を行う。

エ 芸術文化団体

〈文行〉

(ア) 美術館・博物館等に対して

県博物館協議会に加盟する美術館・博物館等に対して、児童生徒向けの展覧会や芸術文化体験活動の実施・拡大など、学校週5日制の趣旨を踏まえた対応を要請する。

(イ) 民族芸能団体等に対して

民族芸能団体等に対して、児童生徒向けの伝統芸能等体験活動や後継者育成活動の一層の充実を要請する。

サークル交流

最近映画見えますか？

十日町シネマトーク

こんにちは。私たち十日町シネマトークは、定期的に映画の好きな仲間と公民館をお借りして、プロジェクトで上映会をしたり、映画館に行ってみんなら鑑賞会をして、上映後「この映画はここ良かった」でも最後の落ちはちょっと」などと好きなこと話し合ったり、そんな映画好きの集まりです。

最近ではテレビやビデオで自宅で見ることが、学生のこととは違い、次の日に誰かと「昨日の映画どうだった？」なんて会話



は無いですよ？映画を見た後、何かしら感じたこと、思ったことを誰かと一緒に共感できたら、楽しいだろうな！そんな思い出でできたサークルです。最近では自分たちだけでは飽き足らず、もっと多くの人にも映画を見てもらいたいと、色々な方のご協力を得て自主上映会を公民館で行いました。上映後、来てくれた方に「とても感動しました。またしてね」なんて言われるとやっぱり映画って良いものだと再実感します。

最近皆さん映画見えていますか？機会があれば私たちと映画について熱く語ってみませんか！(同シネマトーク 宮澤 英雄 記)

地域の活性化を求めて

西山かたくり一座

町おこしを求めて「さわやかな風」がふき「町の元気のエネルギー」に、の願いのもとに結成された町民劇団かたくり一座も五年になろうとしている。

この一座は、町の歴史や民話などの地域文化に取り組み、自ら上演することにより町の活性化や町民の文化意識の向上をめ



ざして活動している。第一作は重い年貢の圧政に苦しんだ領民が、一揆などの暴力的手段に訴えることなく嘆願や直訴の平和的手段で幕府を動かした天明義民の歴史的事実を劇化して演じた。第二作は、石地地区に伝わる伝説の中から「怨の懸橋」を上演した。これらの演劇は、町のふるさと館や地域のコミセン等で上演されたが、新潟のりゅうとびあ劇場でも多くの県民から拍手をいただいている。

百名をこえる団員が、総ての分野に別れ、心を一つにして活動し、町民の大きな感動を呼びおこし、満足感と喜びを共有できたことは、すばらしいことであり、うれしいことであった。(同一座 駒谷 正義 記)

豊栄市中央公民館 社会教育専門員

五十嵐 誠一 さん

公民館勤務、通算十年目のベテランです。

一口に言えば「癒しのせつちゃん」です。市民には勿論；誰にも「せつちゃん、せつちゃん」と頼りにされています。俗にいう市民サイドの支持率は小泉内閣に優るとも劣らずです。主な担当業務は成人式、市展



文化祭、音楽祭など主要な事業を担当。特筆すべき

素顔拝見

上川村公民館

主事 遠藤 佐 さん

上川村の子どもの多くが知っている「遠藤先生」。公民館所属歴は、早や十数年。最早上川村公民館の「顔」である。遠藤君の専門は遺跡等の学術調査であるが、何せ小さい村だと「なんでも屋」をやらせられる。遺跡の発掘作業の合間に公民館事業の準備をしたり、村内の小中学校で「村の史跡や文化」等の特別授業もこなす。資格も社会教育主事や学芸員、スキー2級の腕前をもつ。郡内でも遺跡調査の資格・経験をもつ者が一人



しかいないため、何かあるとすぐお呼びがかかる。一人何役をこなしているのかわからない。

家は、地区で一軒しかない「酒屋・米屋・雑貨屋」。商売の方も奥さんやお母さんの手を借りながらマルチにこなす。こよなく酒と家族を愛し、「いにしえの上川村」から「未来の上川村」までを愛する遠藤君。村発展のために更なるマルチぶりを!!

(同館主任 真田 政弘 記)

恵贈資料紹介

「文芸むらかみ」第22号
「文芸さんぽく」第17号



今年も県北の二市町より文芸誌が恵送されて参りました。

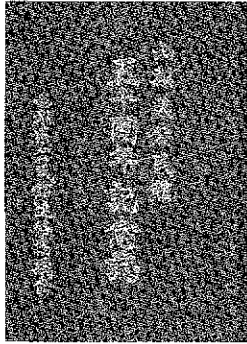
いづれも手づくりの労苦が行間にはじみ出ており、素材さと土の香りのする作品が多く掲載されております。編集に携わった方々に心よりお礼申し上げます。

恵贈資料紹介

山梨県公民館五十周年記念誌

装丁の実に素晴らしい「五十年記念誌」が、山梨県公連より恵送されて参りました。

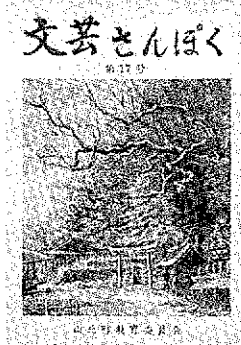
そして扉のカラー写真は、山客と桜花の程良い調和を保った富士山がまた実に素晴らしい。内容は、○発刊に寄せて、○特別寄稿、○山梨県公連のあゆみ、○各地区・各市町村公民館のあゆみ、○資料編とから構成されております。とくに注目すべき内容は、○



各地区・各市町村公民館のあゆみで、沿革、現状と特色、展望という視点で記述され、そして写真等も挿入されております。

文芸むらかみ編集委員会
村上市教育委員会

山北町教育委員会



山梨県公民館連絡協議会

あくまでも、各市町村公民館に力点を置いて作成されたことがうかがい知れます。

記念誌を直接企画・編集した労苦の経緯も、○編集を終えてのあとがきから読み取ることができます。企画段階から発行に至るまで数々の労苦を重ねられた山梨県公連記念誌作成員の方々に感謝しながら……。

平成14年3月の催物ご案内

夢のロボット展
The Fair of Dream Robots for the 21st Century
平成14年3月23日(土)～4月7日(日)

主催 新潟県立自然科学館 (主) 世紀夢のロボット展実行委員会
共催 財団法人アーク・倶楽部(2004)新潟県公民館連絡協議会

あとがき

◇3面では、平成14年度各種公民館大会等の予告をさせていただきました。とくに今年、第43回関プロ大会が第53回県大会を兼ねて豊浦町で開催されます。

また、関プロ大会開催と運動して、関プロ公連事務局が新潟県公連へ移ります。その手始めに2月27日(水)、その理事会が豊浦町ホテル泉慶・華鳳で開催されます。(鈴木記)

表紙解説

「柏崎市・市民プラザ」

公民館の学びを中心とした学習プラザと大規模コンベンション機能を持つ交流プラザで構成された新しいタイプの複合施設で、平成13年6月オープンしました。(柏崎市柏崎公民館)

発行所 新潟県公民館連合会
〒951-8053
新潟市川端町2-9・県林業会館内
TEL・FAX (025)224-6073
発行人 会長 今井 昭 友 夫
編集人 事務局長 鈴木 友 夫
印刷 第一印刷所
〒950-8724
新潟市和合町2-4-18
TEL (025)285-7161 FAX (025)282-1776
【定価1部150円 年共1,800円】